

防災教育チャレンジプラン

住民安全 ネットワークジャパンの試み

「すばやく」「正確に」「多くの人が」
情報を共有するために

「2005年 防災教育チャレンジプラン」

“帰ろう！ 山古志へ”

特定非営利活動法人 住民安全ネットワークジャパン

「携帯電話のメールシステムを活用した防災・防犯情報伝達」

日時 : 平成17年9月11日 10:00 より 11:30まで

場所 : 陽光台山古志仮設住宅 B集会場

目的 : 昨年の10.23 中越大地震で未曾有の大被害を受け現在も仮設住宅に一時避難を余儀なくされている山古志地域の住民を対象に情報伝達・情報共有の重要性を認識してもらう。

家族の一員である高校生を通して理解してもらい絆を深める

プログラム 会場 : 山古志仮設住宅集会場

陽光台 B集会場

10:00 住民安全ネットワークジャパン 理事長 高木 仁挨拶
関市会議員、山古志診療所 佐藤良二先生挨拶

アンケート 5分～10分

10:20 日本市民安全学会副会長・長岡造形大学教授

平井邦彦先生による「災害と情報」講義

休憩

11:00 住民安全ネットワークジャパン より
設立の背景

携帯メールシステムの概要

利用登録方法

情報受信方法

情報入手方法

「特派員」としての情報発信方法

質疑応答

終わりの挨拶 笠井事務局長

アンケート

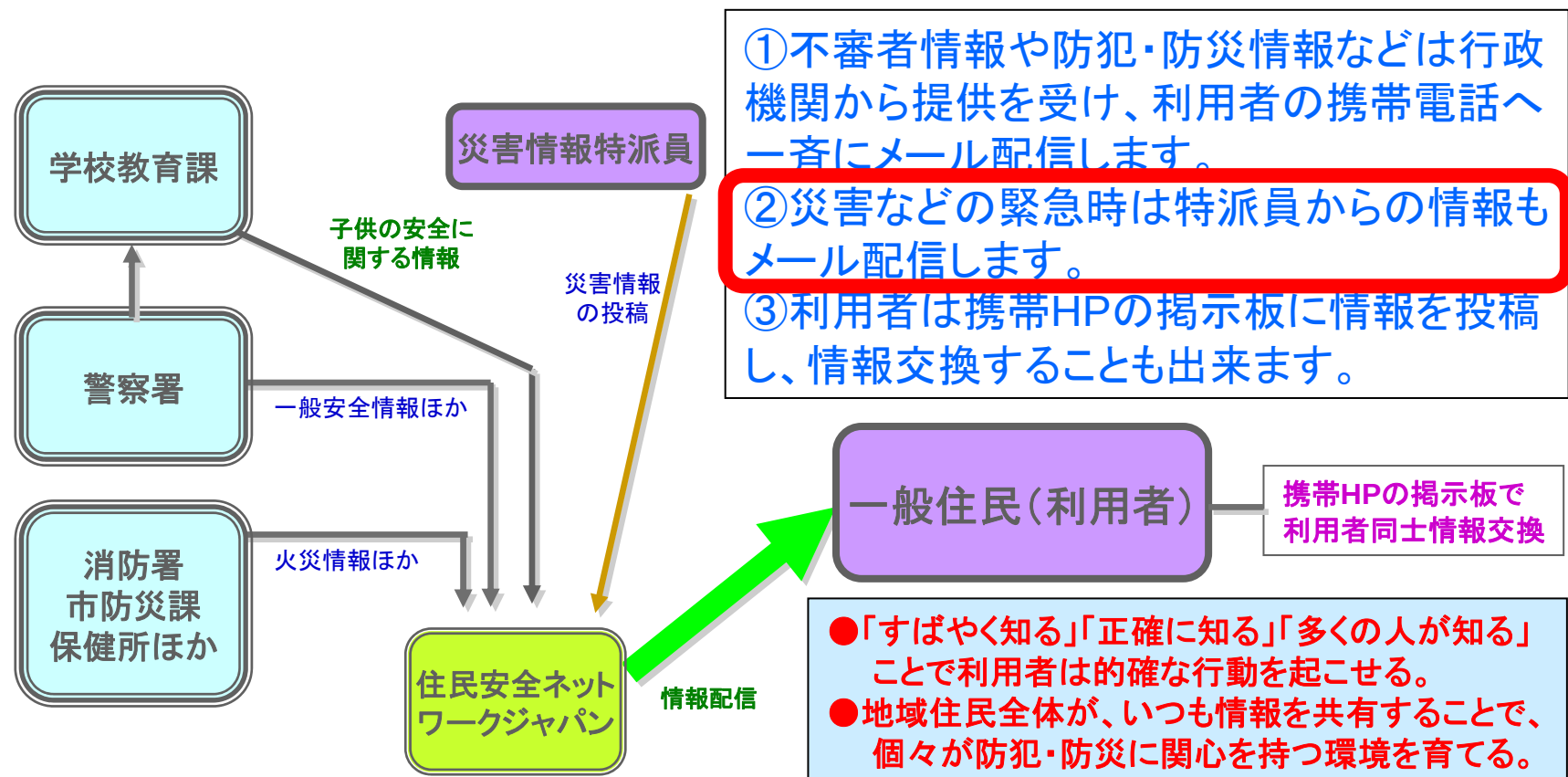
年生

男・女

- 1 昨年 1 0 月 2 3 日地震当時どこにいましたか
- 2 一番最初に何をしましたか
- 3 誰と逃げましたか、何を持ち出しましたか？
- 4 地震直後どんな方法で誰と連絡を取りましたか
- 5 2 3 日以降、地震の情報をどのように収集しましたか
- 6 どのような情報が一番役に立ちましたか
- 7 他人と情報をやり取りする方法はどのような手段が良いと思いますか
- 8 今後「情報を知る」手段としてどのような方法があると思いますか？
- 9 地元の情報は自分たちで発信したいと思いますか？

■情報の流れ

情報元から情報の提供を受け、それが配信されるまでの流れを簡単にまとめました。



■9月11日■

9月11日(日)第一回チャレンジプラン実践 高校生をまじえ、 一般住民の方々に活動主旨を訴えた。



2005年度防災教育チャレンジプラン

■9月18日■

高校生自ら仮設住宅500世帯余りを一軒一軒まわって説明会への高校生の参加を呼びかけた。



■9月25日■

9月25日(日)第二回チャレンジプラン実践
呼びかけに応じ、多くの高校生が集まってくれた。



2005年度防災教育チャレンジプラン

地域の情報を自分たちで発信したい！
君たちの手で地域のために何か行動を起こせるはず。



2005年度防災教育チャレンジプラン

日本市民安全学会副会長 長岡造形大学平井邦彦教授より 「災害と情報」について講義を受ける



災害と情報について



ケータイが皆を繋ぐ情報広場になる！？
自分のケータイでさっそく実践。

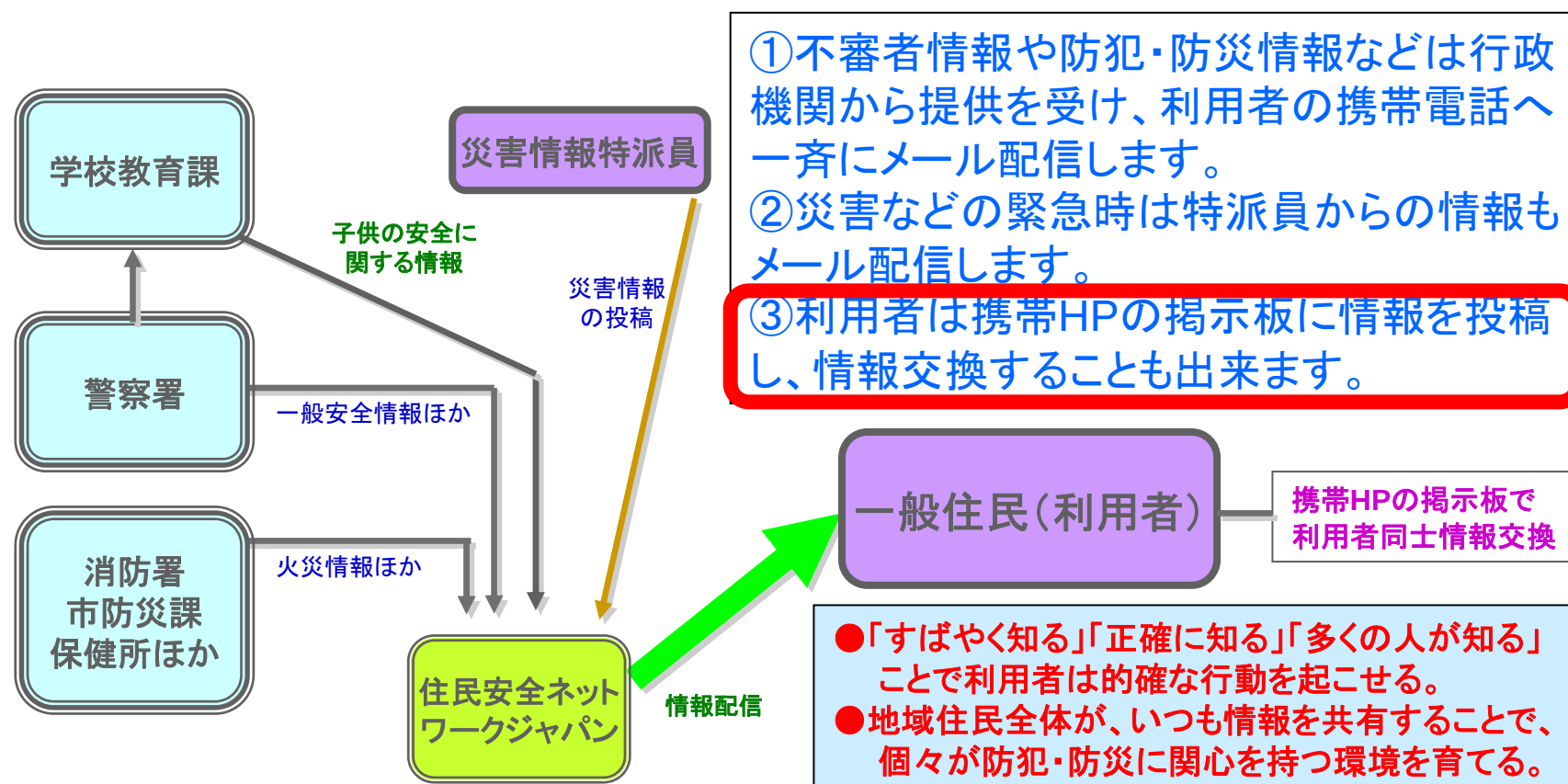


自分のケータイでさっそく実践。



■情報の流れ

情報元から情報の提供を受け、それが配信されるまでの流れを簡単にまとめました。



高校生配信実験1



2005年度防災教育チャレンジプラン

自分たちで情報を発信したい 高校生配信実験2



2005年度防災教育チャレンジプラン

プロジェクターにテスト配信投影



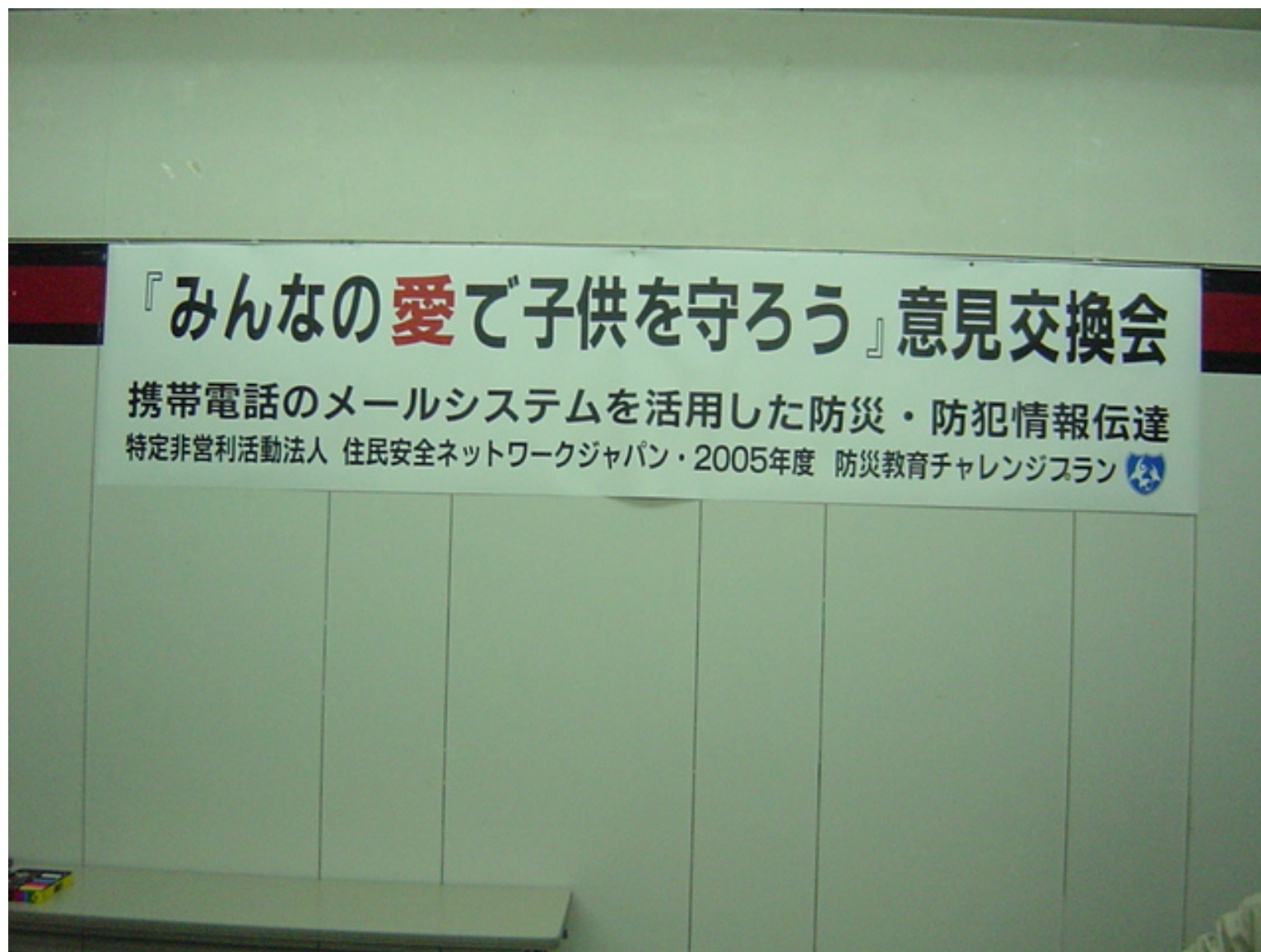
2005年度防災教育チャレンジプラン

■12月23日実践プラン■

愛 ai

• association つながり

• information 情報



防災・防犯チャレンジプラン意見交換会 地元NHKTVも取材に来る



チャレンジプラン実践



若いママさんも議論に参加



PTA会長・行政職員・議員なども参加



2005年度防災教育チャレンジプラン

地域の防災団体の代表も意見発表



高校生も真剣に議論に参加



携帯電話のメールシステムを活用し

電子会議室設置

2月10日現在6、200名の利用登録があり今後このネットワークを生かし

防災・防犯

活動を広めていきたい

NPO法人
住民安全ネットワークジャパン

ホームページ <http://jmjp.jp>

Eメール info@jmjp.jp